

# 幼稚園教師に求められる資質能力—幼稚園予備調査の結果分析—

## Research on Competence and Ability of Kindergarten Teacher

### — Analysis of Preliminary Survey about Kindergarten Teacher—

寅丸 尚恵\*      濱名 浩\*      濱名 陽子\*      森田 健\*      矢田 正一\*  
Hisae TORAMAEU   Hiroshi HAMANA   Yoko HAMANA   Ken MORITA   Shoiti YATA

#### 抄 録

本稿は、学校をめぐるステークホルダーの人たちが教師に求める資質能力を明らかにし、それを実現するための教員養成および現職教育のプログラムを開発することを目的とした研究プロジェクトのうち、幼稚園教師に求める資質能力に関する予備調査の分析結果をまとめたものである。予備調査では、幼稚園教師に求める資質能力は、保護者と教師自身で差異が見られ、また小学校教師に求める資質能力とも差異が認められた。

#### はじめに

本論文は、教育総合研究所の2007年度プロジェクト「ステークホルダーが求める初等教育教師の資質能力とその養成課程」（研究代表者 濱名陽子学内研究員）の今年度の研究成果のうち、主として幼稚園の教師と保護者に対して実施した予備調査の分析結果と知見をまとめたものである。

まずはじめに、この研究プロジェクト全体の研究の概要について紹介する。

本研究プロジェクトは、2007年度から3年間の研究期間を設定し、日本の教師とくに初等教育教師に対し、初等教育にかかわるいわゆるステークホルダーの人たちがどのような資質能力を期待しているかを明らかにし、その資質能力を大学の養成課程において養成していくためのプログラムを開発することを最終目標にスタートした。

#### 1. 研究の背景

今日学校教育をめぐる複雑な諸問題の解決のために、教師の役割は一層重要になっており、その資質能力の向上は、行政や学校が早急に取り組まねばならない状況にある。変化し続ける社会で子どもたちを教育する教師の資質能力は、常に点検、更新していく必要があり、教員免許更新制、現職教員研修がスタートする今日、現代の学校教育にふさわしい教師の資質能力を、養成課程、現職教育においていかに育成していくかが喫緊の課題となっている。

---

\* 関西国際大学教育学部 教育総合研究所学内研究員

教員養成に関して現在このような問題を抱えながら、これまでの教師教育研究また教育社会学研究では、学校教育に関与する人たち、いわゆるステークホルダーが、実際に学校現場や教師に対しどのような要請をもち、いかなる資質能力を教師に求めているのかということに関する実態の把握は十分ではなかった。従って教員養成課程においても、将来の教師となる学生にどのような学力・能力を身につけさせる必要があるかを十分検討できないまま、ただ教師としての一般的で初歩的な能力を育成することに終始していたのではないかという問題意識が、本研究の根底にある。

教師の資質能力に関する社会の関心とその向上に対する社会の期待がこれほど大きくなっている現代にあって、教師の資質能力を具体的、実証的に明らかにする研究と、その養成プログラムを措定する作業が強く求められているといえる。

## 2. 研究の目的と概要

### (1) 研究の目的と本年度の概要

1で述べた問題意識のもとに、本研究は、1) 教師(本研究では初等教育教師)の資質能力を取り扱った各種の資料や文献、またこの問題に関するこれまでの先行研究を収集し、そこで措定されている教師の資質能力を析出し、2) そこで析出された項目について、ステークホルダーの人々に質問紙調査及び面接調査を実施し、ステークホルダーの人々が初等教育教師に求める資質能力を実証的に明らかにし、3) そのような資質能力を大学の養成課程の中で養成するためのプログラムを開発することを研究目的とする。

本研究プロジェクトの研究期間は、2007年度から2009年度までの3年間を予定しており、初年度である今年度は、このうち、1) 文献資料と先行研究の収集と分析、及び2) ステークホルダーへの質問紙調査のための予備調査の実施を行った。

### (2) 研究スタッフ

本研究プロジェクトの研究代表者とメンバーは下記のとおりである。

#### 研究代表者

濱名 陽子 本学教育学部教授

#### プロジェクトメンバー

板良敷 敏 本学教育学部教授

川田 素子 本学教育学部准教授

佐藤 広志 本学人間科学部准教授

進藤 正洋 本学教育学部准教授

尊鉢 隆史 本学教育学部講師

田上 由雄 本学教育学部准教授

富田 福代 本学教育学部教授

豊田 志保 本学教育学部講師

寅丸 尚恵	本学教育学部講師
成田 信子	本学教育学部准教授
西川 正晃	本学教育学部准教授
濱名 浩	本学教育学部准教授
森田 健	本学教育学部講師
矢田 正一	本学教育学部教授
柳本 哲	本学教育学部教授

### (3) 今年度予備調査の概要

前述したように、本年度の研究成果のひとつが、ステークホルダーへの質問紙調査のための予備調査の実施であった。

下記に予備調査の概要を紹介する。

#### ①調査の目的

学校教育を取り巻くステークホルダーには、子ども、教師、保護者、地域の人々等が考えられるが、その中でとくに教師と保護者に対象を絞り、彼らがどのような資質能力を重要と考えているかを試行的に調査し、本調査での調査項目の絞り込みの参考にするため、予備調査を実施した。

#### ②調査対象とサンプル数

##### <小学校教師と小学生の保護者>

教師については、三木市内の1校と神戸市内の1校に依頼し、計55人から回答を得た。

保護者については、三木市内1校の3年生と5年生の保護者に依頼し、100人から回答を得た。

##### <幼稚園教師と幼稚園児の保護者>

教師については、神戸市内の1園に依頼し、23人から回答を得た。

保護者については、教師と同園の保護者に依頼し、205人から回答を得た。

#### ③調査時期と調査方法

実施時期は2007年12月であった。

調査方法は、教師については、各学校(園)に調査票を預け、回答済み調査票を回収する方法で行った。保護者については、担任を通じて子どもに調査票を持ち帰ってもらい、自宅で保護者が回答後、封筒に入れ封をした状態で担任に提出するという方法をとった。

#### ④調査項目

調査項目を紹介する。

#### <教師用>

- 1) 小学校や幼稚園の教師に必要な資質能力を 34 項目について、「ぜひとも必要」から「まったく必要でない」まで4段階で質問した。
- 2) 同じく 34 項目について、「家庭で」「高校卒業までに学校で」「短大・専門学校等で」「大学の学部で」「大学院で」「教師になってから」「クラブ活動等課外活動を通して」「アルバイト等の就労体験を通して」「ボランティア等の社会貢献活動を通して」「必ずしも身につけなくてもよい」という形で、どこでどのように身につけるのがよいかを質問した。
- 3) 同じく 34 項目について、小学校や幼稚園の教師の資質能力としてとくに重要であると思うものを、1位から5位まであげてもらった。
- 4) 自分自身の資質能力を高めるための勉強をどこでしたいか。
- 5) フェース項目として、性別、年齢、教師としての経験年数、管理職かどうか、教師になるための勉強をどこでしたかを尋ねた。

#### <保護者用>

上記質問項目の1)から3)までは、教師用と同じ質問を行った。フェース項目として、性別、年齢、子どもの年齢を質問した。

(濱名陽子)

### 第1節 予備調査結果の全体傾向

#### 1. 幼稚園教師が必要と考える教師の資質能力

表1は、幼稚園教師に必要な資質能力に関して行った 34 項目の質問に対する幼稚園教師の回答を、強い肯定（「ぜひとも必要」）の比率の高い順に並べたものである。

最も多いのは「子ども一人一人の個性を大切にする」(95.7%)で、次が「保護者とのコミュニケーションがとれる」(91.3%)、第3位に「子どもをひきつける表現力がある」「だれとでも協力できる」「子どもが好きである」「子どもの目線に立ってコミュニケーションがとれる」(いずれも 87%)が続いている。第7位は「自らの資質や能力を常に高めようとする」「同僚とのコミュニケーションがとれる」(いずれも 78.3%)、第9位が「教師としての使命感、情熱、意欲をもっている」(73.9%)、第10位が「子どもの模範となるような言動ができる」「子どもの評価が公正・的確である」「社会的な規範を守る」(いずれも 69.6%)であり、ここまでが強い肯定がほぼ7割を越える項目になっている。

ぜひとも必要という回答が多い項目を見ると、まずは子どもを分け隔てなく個性を尊重したいという教師としての基本姿勢がうかがえる。第2位に「保護者とのコミュニケーション」があげられたが、上位項目にはこれ以外にもコミュニケーションに関する項目が3項目入っており、保護者や子ども、同僚の教師さらには「だれとでも協力できる」といった、周りに存在する人々すべてとの

表1 幼稚園教師が必要と考える資質能力

(%)

	強い肯定	弱い肯定
10 子ども一人一人の個性を大切にする	95.7	4.3
13 保護者とのコミュニケーションがとれる	91.3	8.7
01 子どもをひきつける表現力	87	13
02 だれとでも協力できる	87	13
11 子どもが好きである	87	13
12 子どもの目線に立ってコミュニケーションがとれる	87	13
03 自らの資質や能力を常に高めようとする	78.3	21.7
14 同僚とのコミュニケーションがとれる	78.3	21.7
27 教師としての使命感、情熱、意欲をもっている	73.9	26.1
08 子どもの模範となるような言動ができる	69.6	30.4
23 子どもの評価が公正・的確である	69.6	30.4
29 社会的な規範を守る	69.6	26.1
16 子どもの関心を引き出しながら保育できる	60.9	30.4
19 クラスを年齢に応じてまとめていける	60.9	30.4
06 嘘やいじめに対して毅然とした態度をとる	60.9	26.1
30 多様な考え方・見方を受け入れられる	60.9	26.1
15 保育内容についての知識が豊富である	56.5	43.5
17 保育内容が身についている	56.5	43.5
18 子どものしつけができる	52.2	47.8
20 生活指導上のアドバイスができる	52.2	47.8
24 子どもの失敗をおおらかに受け止められる	52.2	47.8
09 得意分野を持っている	52.2	43.5
04 幅広い教養を持っている	47.8	52.2
07 憧れの対象となるような人間的魅力にあふれている	43.5	56.5
22 子どもの心のケア・教育相談ができる	43.5	56.5
28 社会の一員として世の中の変化に敏感である	30.4	60.9
21 子どもの成長・発達に関する専門知識が豊富である	30.4	69.6
25 考えたことを実行できる	30.4	69.6
05 自分自身が夢を抱いている	30.4	65.2
31 社会に貢献しようという意識が高い	30.4	60.9
32 地域の実情について深く理解している	21.7	56.5
26 情報機器が活用できる	13	78.3
33 地球的規模の問題への関心がある	13	65.2
34 国際社会で通用する語学力がある	8.7	43.5

注) 「強い肯定」は「ぜひとも必要」、「弱い肯定」は「どちらかといえば必要」と答えた比率

人間関係が重要であると考えていることがわかる。とりわけ幼稚園教師については、保護者とのコミュニケーションの難しさがあるからこそ、その大切さが大きく評価されていると考えられ、現在の幼稚園現場の課題が見えるように思われる。

いっぽう下位のほうの項目は、情報機器の活用や地球的規模の問題、語学力といった今すぐには必要度が低いと思われる能力、また社会の動きに敏感であることや地域や社会への貢献、そして自分が夢を抱えていることや実行力、さらに子どもの成長・発達に関する専門知識なども強い肯定の比率が低い項目となっている。

## 2. 保護者が必要と考える 幼稚園教師の資質能力

保護者は幼稚園教師にどのような資質能力を期待しているのだろうか。

表2は、保護者の回答を示している。保護者が幼稚園教師に求める資質能力の第1位は「子どもが好きである」(88.7%)で、次に「子どもの目線に立ってコミュニケーションがとれる」(84.4%)、第3位に「子ども一人一人の個性を大切にする」(80.9%)があげられている。続いて第4位が「嘘やいじめに対して毅然とした態度をとる」(77.2%)、第5位が「子どもを引きつける表現力がある」(73.3%)、第6位が「子どもの評価が公正・的確である」(71.7%)、第7位が「子どもの関心を引き出しながら保育できる」(71.2%)、第8位が「子どもの失敗をおおらかに受け止められる」(69.3%)となっており、ここまですべて7割以上の保護者がぜひとも必要であると回答している項目である。

保護者に特徴的なものは、まず子どもへの関心やかかわりを大切にしてほしいという意識である。我が子を中心に、子どもそのものを何よりも大切にしてほしい、分け隔てなく公平に、しかも子どもの失敗はおおらかに受け止めてほしいという親心が表れているといえる。

なかでも「嘘やいじめに対して毅然とした態度をとる」が上位に位置しているのは、それだけ保護者が子ども同士のかかわりに過敏になっており、現代的課題の一端がうかがえる。

それに比して、保育内容についての知識や幅広い教養などは、次の順位に位置づけられており、幼稚園教師の資質能力としてはその次でもよいのではないかという意識が読み取れる。やはり何を差し置いても“まず子どもをしっかりと見てほしい”ということなのであろう。

下位のほうにあがっている項目は教師の回答とほとんど同じく語学力や情報機器の活用、地球的規模への問題などとなっており、今すぐには必要でないと考えていることがわかる。

(森田 健, 矢田正一, 濱名陽子)

表2 保護者が必要と考える幼稚園教師の資質能力

(%)

	強い肯定	弱い肯定
11 子どもが好きである	88.7	10.3
12 子どもの目線に立ってコミュニケーションがとれる	84.4	14.6
13 子ども一人一人の個性を大切にする	80.9	18.1
06 嘘やいじめに対して毅然とした態度をとる	77.2	20.3
01 子どもをひきつける表現力がある	73.3	25.9
23 子どもの評価が公正・的確である	71.7	26.8
16 子どもの関心を引き出しながら保育できる	71.2	27.8
24 子どもの失敗をおおらかに受け止められる	69.3	28.3
27 教師としての使命感、情熱、意欲をもっている	62.9	35.6
08 子どもの模範となるような言動ができる	61.5	37.6
29 社会的な規範を守る	58.5	39.5
02 だれとでも協力できる	57.4	41.7
03 自らの資質や能力を常に高めようとする	57.1	39
30 多様な考え方・見方を受け入れられる	55.1	41.5
22 子どもの心のケア・教育相談ができる	54.1	43.9
15 保育内容についての知識が豊富である	52.2	45.4
19 クラスを年齢に応じてまとめている	52	43.1
13 保護者とのコミュニケーションがとれる	48.8	49.8
17 保育内容が身についている	47.8	48.3
07 憧れの対象となるような人間的魅力にあふれている	43.1	51.5
14 同僚とのコミュニケーションがとれる	40	58.5
18 子どものしつけができる	39.5	53.7
04 幅広い教養を持っている	39	56.1
21 子どもの成長・発達に関する専門知識が豊富である	38.9	54.2
25 考えたことを実行できる	33.3	61.3
20 生活指導上のアドバイスができる	32.4	63.7
05 自分自身が夢を抱いている	31.7	60.5
28 社会の一員として世の中の変化に敏感である	24	65.2
09 得意分野を持っている	21.7	67.5
31 社会に貢献しようという意識が高い	18.5	68.3
32 地域の実情について深く理解している	16.1	71.2
33 地球的規模の問題への関心がある	9.8	66.3
26 情報機器が活用できる	7.8	70.7
34 国際社会で通用する語学力がある	2.4	40.5

注) 「強い肯定」は「ぜひとも必要」、「弱い肯定」は「どちらかといえば必要」と答えた比率

## 第2節 幼稚園教師と保護者の「教師の資質能力」についての意識の差異

今回、幼稚園教師と幼稚園児の保護者に対して実施した「幼稚園教師の資質能力」に関する予備調査(アンケート)の結果概要は、第1節で述べたとおりであるが、その中から幼稚園教師と保護者で意識が異なる項目を選び出し、両者の考え方の差異について考察を試みる。

### 1. 「質問1 幼稚園の教師にとって必要な資質能力」での両者の傾向

(1) 幼稚園教師は様々なコミュニケーション能力が重要と感じている。

回答項目で、①ぜひとも必要、のパーセント(=ポイント。以下「p」で表示)が一番高かったのは、教師は「子ども一人一人の個性を大切にする」(95.7 p)、であり、保護者は「子どもが好きである」(88.7p)であった。

以下、教師の2位が「保護者とのコミュニケーションが取れる」(91.3 p)、3位に「子どもが好きである」「子どもの目線に立ってコミュニケーションがとれる」「子どもをひきつける表現力」「だれとでも協力できる」(いずれも 87.0 p)と続いており、教師は、「子ども一人一人の個性を大切に」しながらも保護者や子ども及び同僚の教師仲間などときちんと“コミュニケーションが図れる”ことが、教師の資質能力として重要と感じている様子がうかがえる。

(2) 保護者は教師に我が子をしっかりと見てほしいと願っている。

いっぽう保護者のほうは、2位に「子どもの目線に立ってコミュニケーションがとれる」(84.4 p)、3位に「子ども一人一人の個性を大切にする」(80.9 p)、4位に「嘘やいじめに対して毅然とした態度をとる」(77.2 p)、5位に「子どもをひきつける表現力」(73.7 p)、6位に「子どもの評価が公正・的確」(71.7 p)となっており、他にも上位には子どもへの係わりに関する項目が多くあげられている。

このことから保護者は、まず“子どもが好き”(1位。88.7p)なのは当然のことながら、子どもを見る目や態度が大切、つまりは“我が子をしっかりと見てほしい”という願いのあることが読み取れる。

### 2. 「質問2 教師の資質能力についてどこで身につけるべきか」での両者の傾向

(1) 資質能力を身につける場所については両者ともほぼ同じ傾向。

質問1で挙げた34項目の回答項目それぞれについて、これらの資質能力を身につける場所等について10項目の選択肢を設けての質問を行った(表3、表4)。

項目によって多少の違いはあるものの、ほとんどが「家庭で」「短大・専門学校で」「教師になってから」の3項目に集中しており、その重要度の順位もよく似ている。

例えば、両者とも上位にあげている「子どもが好きである」ことを身につけたい(教師側)、つけてほしい(保護者側)場所としては、1位に「家庭で」(教師 27.1 p, 保護者 35.1 p)、2位に教師



は「短大・専門学校で」(20.3 p), 保護者は「高校までに, 学校で」(12.5 p), 3位に教師は「高校までに, 学校で」(11.9 p), 保護者は「短大・専門学校で」(11.7 p)と続いており, 順位の違いはあるが上位にあげられた項目は一致している。

(2) 家庭で身につけておくものと, 教師になってからでよいものがある。

家庭で身につけておきたいものとして両者共に1位に挙げているのは, 「自分自身が夢を抱いている」(教師 22.1 p, 保護者 23.4 p), 「嘘やいじめに毅然とした態度をとる」(教師 18.9 p, 保護者 32.7 p), 「憧れの対象となるような人間的魅力にあふれている」(教師 24.5 p, 保護者 24.2 p), 「子どもの規範となるような言動ができる」(教師 21.2 p, 保護者 27.1 p), 「子どもが好きである」(教師 27.1 p, 保護者 35.1 p) の5項目で, いずれも小さい頃から家庭教育で自然と身につけておいてほしいと思われる内容である。

また, 教師になってからでもよいと回答のあったものとしては, 「子ども一人一人の個性を大切にする」(教師 32.6 p, 保護者 29.9 p), 「保護者とのコミュニケーションがとれる」(教師 35.3 p, 保護者 39.1 p), 「保育技術が身についている」(教師 29.1 p, 保護者 31.7 p), 「子どものしつけができる」(教師 25.5 p, 保護者 31.7 p) など, 子どもや親と接してみても初めて経験する内容が読み取れる。

表3 資質能力をどこで身につけるべきか (教師回答)

数字は回答数

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
01 子どもをひきつける表現力がある	7	3	15	5	3	10	2	3	5	0
02 だれとでも協力できる	11	13	10	7	5	4	18	16	8	0
03 自らの資質や能力を常に高めようとする	9	8	16	11	8	10	5	4	3	0
04 幅広い教養を持っている	6	10	17	12	9	8	3	5	3	0
05 自分自身が夢を抱いている	15	11	9	6	6	6	6	5	3	1
06 嘘やいじめに対して毅然とした態度をとる	14	12	9	8	5	10	6	5	5	0
07 憧れの対象となるような人間的魅力にあふれている	12	5	7	4	3	10	4	2	1	1
08 子どもの模範となるような言動ができる	12	5	9	7	5	9	4	4	1	0
09 得意分野を持っている	12	13	17	10	9	6	10	7	4	1
10 子ども一人一人の個性を大切にすること	8	2	10	4	4	15	1	1	1	0
11 子どもが好きである	16	7	12	7	4	4	3	2	4	0
12 子どもが目線に立つコミュニケーションがとれる	7	6	15	9	6	17	2	2	4	0
13 保護者とのコミュニケーションがとれる	8	3	5	2	2	18	3	7	3	0
14 同僚とのコミュニケーションがとれる	8	8	10	6	4	10	10	12	7	1
15 保育内容についての知識が豊富である	4	2	17	11	8	15	2	3	4	0
16 子どもの関心を引き出しながら保育ができる	4	1	16	10	6	19	2	2	4	0
17 保育内容が身についている	3	1	16	10	4	16	1	1	3	0
18 子どものしつけができる	13	1	11	6	6	14	1	1	2	0
19 クラスを年齢に応じてまとめたいける	3	1	8	6	4	20	2	2	3	0
20 生活指導上のアドバイスができる	8	2	7	3	3	18	2	2	2	0
21 子どもの成長・発達に関する専門知識が豊富である	3	1	17	10	9	15	1	2	4	0
22 子どもの心のケア・教育相談ができる	3	1	9	6	6	20	1	1	2	0
23 子どもの評価が公正・的確である	3	4	9	5	5	20	2	3	2	1
24 子どもの失敗をおおらかに受け止められる	9	1	9	4	4	17	1	2	3	0
25 考えたことを実行できる	18	10	9	5	4	10	9	8	6	0
26 情報機器が活用できる	0	6	6	16	8	6	11	3	4	4

27 教師としての使命感、情熱、意欲をもっている	1	6	1	10	7	5	17	1	2	3
28 社会の一員として世の中の変化に敏感である	0	12	5	6	4	3	16	3	6	4
29 社会的な規範を守る	1	16	7	8	5	4	13	6	7	4
30 多様な考え方・見方を受け入れられる	0	15	5	8	0	14	7	7	5	2
31 社会に貢献しようという意識が高い	13	4	6	4	4	12	5	6	9	1
32 地域の実情について深く理解している	10	1	2	1	2	12	3	5	6	5
33 地球的規模の問題への関心がある	10	5	8	7	6	9	3	4	4	5
34 国際社会で通用する語学力がある	6	5	10	6	4	4	2	2	2	10
計	257	201	339	240	172	390	178	139	132	43

注) a : 「家庭で」  
b : 「高校までに、学校で」  
c : 「短大・専門学校で」  
d : 「大学の学部で」  
e : 「大学院で」  
f : 「教師になってから」  
g : 「クラブ活動等を通じて」  
h : 「アルバイト等を通じて」  
i : 「ボランティア等を通じて」  
j : 「必ずしも身につけなくてよい」

表4 資質能力をどこで身につけるべきか（保護者回答）

数字は回答数

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
01 子どものひきつける表現力がある	60	32	88	51	11	65	23	21	26	5
02 だれとでも協力できる	104	104	33	20	9	26	60	52	38	0
03 自らの資質や能力を常に高めようとする	45	47	76	52	24	77	21	14	18	7
04 幅広い教養を持っている	37	34	105	91	30	60	12	19	19	13
05 自分自身が夢を抱いている	87	74	48	41	15	46	16	16	13	15
06 嘘やいじめに対して毅然とした態度をとる	117	73	35	20	12	57	19	10	14	1
07 憧れの対象となるような人間的魅力にあふれている	93	45	43	27	12	65	36	21	26	16
08 子どもの模範となるような言動ができる	101	42	53	43	13	67	18	17	19	0
09 得意分野を持っている	38	59	90	63	28	44	42	15	14	17
10 子ども一人一人の個性を大切にしている	52	17	63	49	16	100	15	9	12	1
11 子どもが好きである	129	46	43	34	14	41	12	14	29	6
12 子どもの目線に立ってコミュニケーションがとれる	53	18	79	56	19	84	11	17	24	4
13 保護者とのコミュニケーションがとれる	49	15	30	24	9	129	12	34	22	6
14 同僚とのコミュニケーションがとれる	45	44	36	23	12	105	44	61	32	4
15 保育内容についての知識が豊富である	13	8	121	86	33	100	9	9	12	0
16 子どもの関心を引き出しながら保育できる	17	8	89	49	16	129	11	9	13	0
17 保育内容が身についている	8	6	106	68	24	107	4	7	7	1
18 子どものしつけができる	65	13	74	46	17	117	6	11	13	7
19 クラスを年齢に応じてまとめている	9	7	56	38	13	154	6	6	9	4
20 生活指導上のアドバイスができる	50	11	56	38	15	132	8	9	12	4
21 子どもの成長・発達に関する専門知識が豊富である	11	5	116	95	41	94	4	4	6	4
22 子どもの心のケア・教育相談ができる	17	6	81	69	29	118	6	9	12	4
23 子どもの評価が公正・的確である	36	13	66	40	18	133	9	8	13	4
24 子どもの失敗をおおらかに受け止められる	58	16	56	29	14	132	9	10	15	3
25 考えたことを実行できる	103	63	58	43	21	63	22	23	23	0
26 情報機器が活用できる	8	33	35	79	63	26	67	9	9	6

27 教師としての使命感、情熱、意欲をもっている	44	37	18	78	61	26	112	9	9	13
28 社会の一員として世の中の変化に敏感である	2	62	19	40	31	19	107	9	31	30
29 社会的な規範を守る	12	131	40	35	28	17	58	15	29	20
30 多様な考え方・見方を受け入れられる	0	99	40	53	1	76	29	40	35	1
31 社会に貢献しようという意識が高い	73	24	28	24	14	71	10	29	64	16
32 地域の実情について深く理解している	51	13	23	19	14	118	10	21	36	17
33 地球的規模の問題への関心がある	66	22	31	34	21	62	8	12	45	29
34 国際社会で通用する語学力がある	19	28	56	57	28	28	6	6	9	85
計	1672	1255	1991	1614	726	2688	842	575	708	343

注) a : 「家庭で」  
b : 「高校までに、学校で」  
c : 「短大・専門学校で」  
d : 「大学の学部で」  
e : 「大学院で」  
f : 「教師になってから」  
g : 「クラブ活動等を通じて」  
h : 「アルバイト等を通じて」  
i : 「ボランティア等を通じて」  
j : 「必ずしも身につけなくてよい」

### 3. 「質問3 質問1と2で特に重要だと思うもの1位～5位をあげる」での両者の傾向

(1) 1位は両者共「子どもが好き」で、2位以下も似たような傾向である。

教師の資質能力として「子どもが好きである」(教師 40.9 p, 保護者 45.7 p)が両者共圧倒的に多く、以下2位に教師は「子どもの個性を大切にする」(13.6 p)を、保護者は「子どもをひきつける表現力」(11.6 p)を挙げており、3位はこの2位の項目が入れ替わっている。

つまり、教師の資質能力として必要なことは、教師も親もまず「子どもが好き」であり、次に「子どもの個性」を大事にし、「子どもをひきつける表現力」を身につけたい(教師)、つけて欲しい(保護者)と願っていると読み取れる(表5, 表6)。

(2) 「保護者とのコミュニケーションがとれる」でやや温度差がある。

教師側が、保護者とのコミュニケーションをかなり重要(4位で 13.6 p, 5位で 18.2 p)ととらえているのに比較して、保護者のほうは5位(9.1 p)でやっと目立つ程度で重要度がそれほどでもないのかもしれないと思われる。原因としては、保護者は家庭の事情などは教師に話しづらく、また遠慮などもあると思われる。

表5 幼稚園教師に求められる資質能力の順位(教師の回答)(%)

幼稚園教師の資質能力(1位)	
子どもが好き	40.9
子どもの個性を大切にする	13.6
子どもをひきつける表現力	9.1
だれとでも協力できる	9.1
子どもの目線に立つてのコミュニケーション	9.1
子どもの関心を引き出す保育	9.1
資質や能力を常に高める	4.5
嘘やいじめに対して毅然とした態度	4.5

幼稚園教師の資質能力(2位)	
子どもの個性を大切にする	22.7
子どもを引きつける表現力	18.2
子どもの目線に立つてのコミュニケーション	13.6
子どもが好き	9.1
誰とでも協力できる	4.5
子どもの模範となるような言動	4.5
得意分野をもっている	4.5
保護者とのコミュニケーション	4.5
保育技術	4.5
子どもの心のケア・教育相談	4.5
子どもの評価が公正・的確	4.5
教師としての使命感、情熱、意欲	4.5

幼稚園教師の資質能力（3位）

子どもの目線に立つてのコミュニケーション	26.1
子どもの失敗を受け止められる	13
資質や能力を常に高める	8.7
子どもの個性を大切にする	8.7
子どもをひきつける能力	4.3
子どもの模範となるような言動	4.3
保護者とのコミュニケーション	4.3
同僚とのコミュニケーション	4.3
子どものしつけ	4.3
クラスを年齢に応じてまとめる	4.3
生活指導上のアドバイス	4.3
子どもの評価が公正・的確	4.3
社会的な規範を守る	4.3

幼稚園教師の資質能力（4位）

子どもの関心を引き出す保育	18.2
保護者とのコミュニケーション	13.6
同僚とのコミュニケーション	13.6
子どもの心のケア・教育相談	9.1
子どもの評価が公正・的確	9.1
子どもをひきつける表現力	4.5
だれとでも協力できる	4.5
夢を抱いている	4.5
人間的魅力	4.5
子どもの個性を大切にする	4.5
保育技術	4.5
教師としての使命感・情熱・意欲	4.5
多様な考え方・見方	4.5

幼稚園教師の資質能力（5位）

保護者とのコミュニケーション	18.2
同僚とのコミュニケーション	13.6
子どもの関心を引き出す保育	13.6
資質や能力を常に高める	9.1
子どもの失敗を受け止められる	9.1
社会的な規範を守る	9.1
子どもを引きつける表現力	4.5
子どもの個性を大切にする	4.5
子どもの目線に立つてのコミュニケーション	4.5
保育内容についての知識	4.5
子どもの心のケア・教育相談	4.5
教師としての使命感・情熱・意欲	4.5

表6 幼稚園教師に求められる資質能力の順位（保護者の回答）（％）

幼稚園教師の資質能力（1位）	
子どもが好き	45.7
子どもをひきつける表現力	11.6
子どもの個性を大切にする	9
人間的魅力	4.5
子どもの目線に立つてのコミュニケーション	4
子どもの関心を引き出す保育	3.5
教師としての使命感、情熱、意欲	3.5
保育技術	3
子どもの失敗を受け止められる	3
子どもの心のケア・教育相談	2.5
嘘やいじめに対して毅然とした態度	2
子どもの模範となるような言動	1.5
子どもの評価が公正・的確	1.5
資質や能力を常に高める	1
保育内容についての知識	1
夢を抱いている	0.5
同僚とのコミュニケーション	0.5
子どもの成長・発達の専門知識	0.5
積極的な規範を守る	0.5
多様な考え方・見方	0.5

幼稚園教師の資質能力（2位）	
子どもの目線に立つてのコミュニケーション	17.5
子どもの個性を大切にする	16
子どもが好き	12
子どもの関心を引き出す保育	12
子どもをひきつける表現力	7
嘘やいじめに対して毅然とした態度	4.5
子どもの評価が公正・的確	4.5
人間的魅力	4
教師としての使命感、情熱、意欲	4
子どもの模範となるような言動	2
子どもの失敗を受け止められる	2
多様な考え方・見方	2
資質や能力を常に高める	1.5
保育技術	1.5
子どもの成長・発達の専門知識	1.5
だれとでも協力できる	1
幅広い教養	1
保育内容についての知識	1
子どものしつけ	1
クラスを年齢に応じてまとめる	1
子どもの心のケア・教育相談	1



得意分野をもっている	0.5
保護者とのコミュニケーション	0.5
社会的な規範を守る	0.5
社会に貢献しようという意識	0.5

幼稚園教師の資質能力（3位）	
子どもの関心を引き出す保育	13.7
子どもの目線に立つてのコミュニケーション	13.2
子どもをひきつける表現力	11.2
嘘やいじめに対して毅然とした態度	8.3
子どもの個性を大切にする	7.3
子どもの失敗を受け止められる	6.3
子どもが好き	5.9
子どもの評価が公正・的確	5.9
教師としての使命感、情熱、意欲	4.9
子どもの模範となるような言動	2.9
子どもの成長・発達の専門知識	2.4
人間的魅力	2
保護者とのコミュニケーション	2
保育技術	2
夢を抱いている	1.5
保育内容についての知識	1.5
生活指導上のアドバイス	1.5
子どもの心のケア・教育相談	1.5
だれとでも協力できる	1
資質や能力を常に高める	1
クラスを年齢に応じてまとめる	1
同僚とのコミュニケーション	0.5
子どものしつけ	0.5

幼稚園教師の資質能力（第4位）	
子どもの失敗を受け止められる	9.5
子どもの個性を大切にする	9
子どもの目線に立つてのコミュニケーション	9
子どもをひきつける表現力	8.5
子どもの関心を引き出す保育	7.5
子どもの評価が公正・的確	7
保育技術	6
嘘やいじめに対して毅然とした態度	4.5
子どもの模範となるような言動	4.5
子どもの心のケア・教育相談	4.5
教師としての使命感、情熱、意欲	4
子どもの成長・発達の専門知識	3.5
人間的魅力	3
子どもが好き	2.5

保育内容についての知識	2.5
多様な考え方・見方	2.5
資質や能力を常に高める	2
保護者とのコミュニケーション	2
子どものしつけ	1.5
だれとでも協力できる	1
夢を抱いている	1
得意分野をもっている	1
同僚とのコミュニケーション	1
クラスを年齢に応じてまとめる	1
幅広い教養	0.5
社会的な規範を守る	0.5
社会に貢献しようとする意識	0.5

幼稚園教師の資質能力（5位）	
子どもの個性を大切にする	9.1
保護者とのコミュニケーション	9.1
子どもの失敗を受け止められる	7.6
子どもの目線に立つてのコミュニケーション	7.1
子どもの関心を引き出す保育	7.1
子どもの心のケア・教育相談	6.6
子どもをひきつける表現力	6.1
嘘やいじめに対して毅然とした態度	5.6
教師としての使命感、情熱、意欲	5.1
保育内容についての知識	4.5
クラスを年齢に応じてまとめる	4.5
子どもの評価が公正・的確	3.5
人間的魅力	3
子どものしつけ	3
子どもの成長・発達の専門知識	3
幅広い教養	2
保育技術	2
多様な考え方・見方	2
資質や能力を常に高める	1.5
夢を抱いている	1.5
子どもが好き	1.5
子どもの模範となるような言動	1
考えたことを実行できる	1

#### 4. 教師と保護者の意識の差が 10 p 以上の項目で比較して読み取れること

(1) 「質問 1 幼稚園の教師にとって必要な資質能力」から見えるもの。

教師と保護者の考えで、教師のほうが必要と感じている項目で差の大きいものは、①「保護者と

のコミュニケーションがとれる」(43 p 差), ②「同僚とのコミュニケーションがとれる」(38.3 p 差), ③「得意分野を持っている」(30.5 p 差), ④「誰とでも協力できる」(29.6 p 差), ⑤「自らの資質や能力などを常に高めようとする」(21.2 p 差) などが目立っている。

この意識の差は、教師が常に保護者を意識し、的確な対応が求められる中での人間関係をとることの厳しさ、難しさがうかがえる。

また、保育に対する志や専門性について、教師は問題意識と向上心を強く感じていることを裏付けているように思える。

次に、逆に保護者のほうが教師よりも必要と感じている資質能力のポイント差を見てみると、①「子どもの失敗をおおらかに受け止められる」(17.1 p 差), ②「嘘やいじめに対して毅然とした態度をとる」(16.3 p 差), ③「子どもの関心を引き出しながら保育ができる」(10.3 p 差) などが挙げられる。

このことから、保護者は自分の子どもとの係わりに関することには敏感に反応しており、反対に教師にとっては、嘘やいじめなどは幼稚園ではあまり見られないと考えているのでは、と思われる。

## (2) 「質問2 教師の資質能力はどこで身につけるべきか」から見えるもの。

この質問で特徴的な結果を挙げると、①「誰とでも協力できる」について、教師が“アルバイトやクラブ活動で”の選択が計 37.0 p なのに対して、保護者は“家庭で、高校までに学校で”の選択が計 46.6 p と大きく分かれている。

また②「嘘やいじめに対して毅然とした態度をとる」について、教師が“家庭で”が 18.9 p なのに対して、保護者は 32.7 p となっており、これも両者の考えが異なっている。

さらに③「子どもが好きである」については、両者とも“家庭で”(教師 27.1 p, 保護者 35.1 p) が1位なのは同じだが、大きく違うのは2位の項目が、教師が“短大・専門学校で”身につける割合(20.3 p)が、保護者(11.7 p)のほぼ2倍になっており、養成校での実習等での影響の大きさがうかがえる。

## (3) 「質問3 教師の資質能力で特に重要なものを1位～5位まであげる」から見えるもの。

教師があげた重要度は、①「子どもが好き」、②「子どもの個性を大切にする」、③「子どもをひきつける表現力」、④「子どもの目線に立つコミュニケーション」、⑤「誰とでも協力できる」⑥「子どもの関心を引き出す保育」というおおまかな順になる。(③は同数が4項目あった。)

保護者は、①「子どもが好き」、②「子どもをひきつける表現力」、③「子どもの目線に立つコミュニケーション」、④「子どもの個性を大切にする」、⑤「子どもの関心を引き出す保育」という順になっている。

以上の結果から、重要度においては教師と保護者がほぼ一致している様子が読み取れる。

(森田 健, 寅丸尚恵)

## 5 まとめ（予備調査の結果から見えてくるもの）

### （1）幼稚園教師と保護者との意識の違い

この調査での両者の違いは、保護者や同僚とのコミュニケーションが取れるという認識の違いである。保護者や同僚とのコミュニケーションは、現場に出て初めて出会う課題である。昨今の学生生活のなかで、同世代の友達や教師についても友達感覚を持ち、大学の先生にまでため口で済んでしまうコミュニケーションに慣れている学生にとって、保護者や上司に尊敬謙譲語を用いつつ、オープンマインドで接して、信頼関係を築いていくことは、容易な事ではないと推測される。

経験の浅い幼稚園教師に突きつけられるのは、保護者や同僚との対応力である。大学や専門学校でも、教科や演習科目もなく、教育実習でも保護者との対応は除かれ、モンスターペアレンツと呼ばれる他罰的な保護者が増えている現状のなかで、現実には就職1年以内に退職していく幼稚園教師の多くはそこで躓いている事実からも裏付けられる。保護者自身は対応される側、すなわちサービスを受ける側なので。自らが幼稚園教師のストレスの原因になっているという自覚は持ちにくい。ここに両者の意識の違いが生じている。

いっぽう保護者にとって最も関心が高いのは、我が子を幼稚園教師がどのように扱ってもらっているかという事項である。特に、うそやイジメに対して毅然とした態度を取るという項目に意識の違いが現れている。

嘘やイジメやけんかについて、認識の低い幼稚園教師には、そのようなことは幼稚園児にはあまりなく、たいした事ではないと感じ、認識の高い幼稚園教師には、育ちの上でとても大切な経験で大切に扱うという意識がある。しかしながら、能力資質というよりは専門的知識であり保育実践力と考えているのではないか。

いっぽう、昨今自己中心主義と揶揄されている保護者にとっては、我が子がイジメに会うということは、心配で深刻な問題である。現場の保護者からのクレームも、我が子が〇〇してもらえなかった、友達からいたずらやイジメを被ったという事が、最も強いものとなっている。認識が低かったり、経験の浅い幼稚園教師はそのようなことが起きると、謝罪することしかできず、その経験が子どもにとって大切で乗り越えるべき課題であるという見通しや説明ができないために、保護者の怒りや誤解を解くことが困難である。

このような場合においても、上司や同僚とのコミュニケーションが取れていれば、そこでホウレンソウ（報告・連絡・相談）ができ、解決・保育実践力につながっていく。それができない場合は、一人で抱え込み周りに悟られないよう処置し、最終的に周りに知れるようになり、信頼を失い職をあきらめていくという実態もあることから、教師にとってコミュニケーションが幼稚園での大切な資質能力としてあげられるのであろう。

### （2）どの段階で資質能力を身に付けるべきか

教師が大切としているコミュニケーション能力、子どもの個性を大切にする、保護者とのコミュニケーションがとれるなど、対子ども、対保護者のいずれも教師になってからとあげている。

また保護者が大切としている、子どもが好きである、嘘やいじめに対して毅然とした態度をとることは、家庭で身につけるものと考え、子どもの目線に立って、子どもの個性を大切にすることは、現場に入ってからと考えている。

上位に出てくる項目のうちで、子どもをひきつける表現力、自らの資質や能力を常に高めようとする、が養成校でとあげられている。

教師は、現場での体験が大きく資質能力を磨く場であると考えているいっぽう、保護者は教師の資質能力は、育ってきた家庭での環境や教育力に負うものが大きいと考えている。

教師と保護者が共に多くあげている項目のなかで、養成校に求められているものは、具体的な保育技術と自己教育力であった。

これらのアンケートの結果から、幼稚園教師の養成では、多くの現場体験、同じ立場の学生だけではでない、上下関係のなかの共同・協同体験、保育実践力などが求められていると考えられる。

(濱名 浩)

### 第3節 教師に求められる資質能力の小学校と幼稚園の比較

同じ初等教育教師といっても、いわゆる普通教育が開始される小学校と、小学校以降に施される教育の基礎を培う幼稚園とでは、そこに働く教師に求められる資質能力に差異があることが予測される。本論文の最後に、小学校教師と幼稚園教師に対して求められる資質能力を、教師の回答と保護者の回答の双方について比較してみたい。

#### 1. 教師の回答の比較

表7は、教師の回答のうち「ぜひとも必要」と答えた比率について、小学校教師と幼稚園教師で比較するために並べて表示したものである。質問項目34項目中2項目は質問項目が小学校教師と幼稚園教師では異なっているため、ここでは同一質問を行った項目32項目について比較している。

また今回の予備調査は、幼稚園教師は男性1名を除くとすべてが女性であったのに対し、小学校教師は男性が23.6%を占めている。小学校教師と幼稚園教師の回答を比較する際、性別による差異をコントロールするために、ここでは小学校教師のうち女性の比率をかかげ、幼稚園教師と比較する際には、女性の小学校教師と幼稚園教師の回答を比較することにする。

小学校教師のほうに多い項目、幼稚園教師のほうに多い項目をあげると以下ようになる。

<小学校教師のほうに多い項目>

- ・「自分自身が夢を抱いている」
- ・「嘘やいじめに対して毅然とした態度をとる」
- ・「子どもの関心を引き出しながら授業（保育）ができる」
- ・「授業（保育）技術が身についている」
- ・「子どものしつけができる」

- ・「子どもの心のケア・教育相談ができる」
- ・「子どもの失敗をおおらかに受け止められる」
- ・「考えたことを実行できる」
- ・「情報機器が活用できる」
- ・「社会の一員として世の中の変化に敏感である」
- ・「地球的規模の問題への関心がある」

<幼稚園教師のほうに多い項目>

- ・「子どもを引きつける表現力」
- ・「だれとでも協力できる」
- ・「子どもの模範となるような言動ができる」
- ・「子ども一人一人の個性を大切にする」
- ・「子どもが好きである」
- ・「子どもの目線に立ってコミュニケーションがとれる」
- ・「保護者とのコミュニケーションがとれる」
- ・「同僚とのコミュニケーションがとれる」
- ・「教師としての使命感、情熱、意欲をもっている」

これらの結果をまとめると、幼稚園教師に比べ小学校教師は、授業技術に関する能力、子どもの心のケア・教育相談の力、嘘やいじめへの対応やしつけなど児童指導の力、情報機器活用能力、社会の変化に対応する能力、地球的規模の問題への関心、教師自身が夢や理想に向けて生きている姿等を、教師として必要な資質能力として強く認識している。

いっぽう幼稚園教師は、子どもが好きであり、教職に対する使命感、情熱、意欲を持っていること、子どもの模範となるような言動ができること、保育技術の中では表現力があること、また何よりも子どもとのコミュニケーション、同僚とのコミュニケーション、保護者とのコミュニケーションといったコミュニケーション能力があることを、小学校教師に比べ重要視していることが読み取れる。

表7 「ぜひとも必要」と答えた比率(教師の回答)

(%)

	小学校	小学校 (女性の み)	幼稚園
Q1-01 子どもをひきつける表現力がある	72.7	73.8	87
Q1-02 だれとでも協力できる	60.0	64.3	87
Q1-03 自らの資質や能力を常に高めようとする	76.4	81.0	78.3
Q1-04 幅広い教養をもっている	45.5	50.0	47.8
Q1-05 自分自身が夢を抱いている	43.6	40.5	30.4
Q1-06 嘘やいじめに対して毅然とした態度をとる	87.3	90.5	60.9
Q1-07 憧れの対象となるような人間的魅力にあふれている	43.6	45.2	43.5
Q1-08 子どもの模範となるような言動ができる	54.5	54.8	69.6
Q1-09 得意分野をもっている	49.1	47.6	52.2
Q1-10 子ども一人一人の個性を大切にする	69.1	71.4	95.7
Q1-11 子どもが好きである	70.9	71.4	87
Q1-12 子どもの目線に立ってコミュニケーションがとれる	65.5	64.3	87
Q1-13 保護者とのコミュニケーションがとれる	72.7	76.2	91.3
Q1-14 同僚とのコミュニケーションがとれる	52.7	59.5	78.3
Q1-15 教科(保育)内容についての知識が豊富である	50.9	52.4	56.5
Q1-16 子どもの関心を引き出しながら授業(保育)ができる	78.2	81.0	60.9
Q1-17 授業(保育)技術が身についている	69.1	71.4	56.5
Q1-18 子どものしつけができる	72.7	73.8	52.2
Q1-21 子どもの成長・発達に関する専門知識が豊富である	34.5	35.7	30.4
Q1-22 子どもの心のケア・教育相談ができる	52.7	52.4	43.5
Q1-23 子どもの評価が公正・的確である	69.1	71.4	69.6
Q1-24 子どもの失敗をおおらかに受け止められる	56.4	61.9	52.2
Q1-25 考えたことを実行できる	36.4	38.1	30.4
Q1-26 情報機器が活用できる	30.9	28.6	13
Q1-27 教師としての使命感、情熱、意欲をもっている	67.3	66.7	73.9
Q1-28 社会の一員として世の中の変化に敏感である	45.5	45.2	34.8
Q1-29 社会的な規範を守る	65.5	69.0	69.6
Q1-30 多様な考え方・見方を受け入れられる	61.8	64.3	60.9
Q1-31 社会に貢献しようという意識が高い	29.1	28.6	30.4
Q1-32 地域の実情について深く理解している	29.1	26.2	21.7
Q1-33 地球的規模の問題への関心がある	25.5	19.0	13
Q1-34 国際社会で通用する語学力がある	12.7	11.9	8.7

## 2. 保護者の回答の比較

次に表8は、保護者が小学校教師に求めるものと幼稚園教師に求めるものを比較したものである。小学校教師に対しては小学生をもつ保護者、幼稚園教師に対しては幼稚園児をもつ保護者が回答している。

教師の回答を同じように、おおまかな傾向をまとめると次のようになる。

<小学校の保護者のほうに多い項目>

- ・「幅広い教養をもっている」
- ・「自分自身が夢を抱いている」
- ・「憧れの対象となるような人間的魅力にあふれている」
- ・「得意分野をもっている」
- ・「教科（保育）内容についての知識が豊富である」
- ・「子どもの関心を引き出しながら授業（保育）ができる」
- ・「授業（保育）技術が身についている」
- ・「子どもの心のケア・教育相談ができる」
- ・「情報機器が活用できる」
- ・「社会の一員として世の中の変化に敏感である」
- ・「社会的な規範を守る」
- ・「多様な考え方・見方を受け入れられる」
- ・「社会に貢献しようという意識が高い」
- ・「地域の実情について深く理解している」
- ・「地球的規模の問題への関心がある」

<幼稚園の保護者のほうに多い項目>

- ・「だれとでも協力できる」
- ・「子どもが好きである」
- ・「子どもの目線に立ってコミュニケーションがとれる」
- ・「同僚とのコミュニケーションがとれる」
- ・「子どもの失敗をおおらかに受け止められる」

まず小学校の保護者のほうが、幼稚園の保護者に比べ、教師に求める資質能力が格段に多くなっている。教養、人間的魅力などの人間としての力、社会の一員としての自覚と規範ある生き方、得意分野をもち、授業技術や子どもの心のケア、教育相談の力があること、地域の実情を深く理解していること等、何とも広い領域にわたり、また多面的な資質能力を教師に期待している。

それに比べ幼稚園の保護者は、子どもが好きで子どもの目線に立って子どもとコミュニケーションがとれ、失敗をおおらかに受け止め、同僚や他の人とコミュニケーションがとれるといったところを、小学校の保護者より多く期待している。

小学校にあがると、保護者は教師に多くの資質能力を期待するようになると考えることができるが、本調査ではさらに対象者を増やし、本格的な分析を行っていくことが必要である。



表8 「ぜひとも必要」と答えた比率（保護者の回答）

（％）

	小学校	幼稚園
Q1-01 子どもをひきつける表現力がある	72	73.7
Q1-02 だれとでも協力できる	50	57.4
Q1-03 自らの資質や能力を常に高めようとする	52	57.1
Q1-04 幅広い教養をもっている	46	39
Q1-05 自分自身が夢を抱いている	44	31.7
Q1-06 嘘やいじめに対して毅然とした態度をとる	75	77.2
Q1-07 憧れの対象となるような人間的魅力にあふれている	52	43.1
Q1-08 子どもの模範となるような言動ができる	69	61.5
Q1-09 得意分野をもっている	39	21.7
Q1-10 子ども一人一人の個性を大切にする	81	80.9
Q1-11 子どもが好きである	77	88.7
Q1-12 子どもの目線に立ってコミュニケーションがとれる	78	84.4
Q1-13 保護者とのコミュニケーションがとれる	46.5	48.8
Q1-14 同僚とのコミュニケーションがとれる	30	40
Q1-15 教科（保育）内容についての知識が豊富である	64	52.2
Q1-16 子どもの関心を引き出しながら授業（保育）ができる	83	71.2
Q1-17 授業（保育）技術が身についている	63	47.8
Q1-18 子どものしつけができる	44	39.5
Q1-21 子どもの成長・発達に関する専門知識が豊富である	37	38.9
Q1-22 子どもの心のケア・教育相談ができる	67	54.1
Q1-23 子どもの評価が公正・的確である	74.7	71.7
Q1-24 子どもの失敗をおおらかに受け止められる	59	69.3
Q1-25 考えたことを実行できる	37	33.3
Q1-26 情報機器が活用できる	13	7.8
Q1-27 教師としての使命感、情熱、意欲をもっている	67	62.9
Q1-28 社会の一員として世の中の変化に敏感である	36	24
Q1-29 社会的な規範を守る	66	58.5
Q1-30 多様な考え方・見方を受け入れられる	65	55.1
Q1-31 社会に貢献しようという意識が高い	35	18.5
Q1-32 地域の実情について深く理解している	23	16.1
Q1-33 地球的規模の問題への関心がある	26	9.8
Q1-34 国際社会で通用する語学力がある	9	2.4

### 3. まとめと今後の課題

以上、小学校教師と幼稚園教師に必要であると考えられる資質能力には差異が認められる。

まず教師自身の差異であるが、幼稚園教師に比べ小学校教師は、具体的な授業技術や児童指導の力、また社会の変化に対応した、自分の夢や理想に向けて生きることを教師に必要な資質能力として求められる傾向がある。

いっぽう幼稚園教師には、保育技術や保育内容に関する専門性よりも、子どもそのものとかかわることができる能力、そして子どもだけでなく保護者をはじめとした周囲の人々とうまくコミュニケーションがとれることが、重要な資質能力として認識される傾向がある。

初等教育教師といっても、小学校教師と幼稚園教師では求められる資質能力に相違がある。本調査では性別や経験年数を確実にコントロールした分析ができるよう、また資質能力を構造化できるようサンプル数を増やし、さらに詳細な分析を行っていきたい。

(濱名陽子)

## Abstract

This paper reports the results of preliminary survey about the competence and ability of kindergarten teacher. This survey is the part of the research project that explores the teacher competence and ability. This project attempts to clarify the quality and ability that stakeholders over the schools seek and expect, and to develop a teacher training program and incumbent program to train the qualified teacher. The results of the survey show that the competence and ability of kindergarten teacher that parents expect is different from ones that kindergarten teachers expect, and the competence and ability of kindergarten teacher is different from the ones of elementary school teacher.